

と き め き

島根県農業技術センター

ブドウの簡単な接ぎ木育苗法の開発

パラフィルムとロックウールを用いて、簡単にブドウの良質接ぎ木苗を自家生産する方法を開発しました。

一般に、ブドウの苗木生産は、休眠枝を用いた接ぎ挿し木育苗法が行われていますが、電熱温床の準備など多くの作業があり個人で行うには難しい技術です。そこで、良質苗を誰でも簡単に自家生産する方法としてパラフィルムとロックウールを用いた簡易な育苗法を開発しました。

接ぎ木の手順は、以下の方法で行います。

- 1) 台木と穂木は、切り込みを入れて接ぎ合わせ、パラフィルムを用いて台木・穂木ともしっかり巻く(図1、2、3)。次に、十分に吸水させた7.5cm角のロックウールに挿し木する(図4)。
- 2) ロックウールに挿した苗は、1cm程度の水をためた水槽に入れて、水が無くならないように管理し、新根が出てきたら本圃や苗木圃場に定植する(図5)。



図1. 台木、穂木とも切面頂部から縦に切り込みを入れる。



図2. 台木、穂木とも互いの形成層がぴったりと合うように差し込む。



図3. パラフィルムは芽も包み込み隙間ができないように巻き付ける。



図4. 十分に吸水させたロックウールに挿し木を行う。



図5. (ロックウールに挿したものは)バットなどの水槽に入れる。



図6. パラフィルムを巻かない接ぎ穂(左側)は、発芽せず枯れる。

この技術のポイントは、パラフィルムとロックウールを用いる点です。パラフィルムは台木と穂木の乾燥を防止し、接ぎ木の活着率を向上させる効果があります(図6)。また、ロックウールは発根した苗木の定植後の植え傷みを防止するのに有効です。

問い合わせ先：技術普及部果樹技術普及グループ(担当:山本孝司)

TEL 0853-22-6698 E_mail:nougi@pref.shimane.lg.jp